

# 姉妹都市交流

はいさい!! 6月1日から11月30日まで姉妹都市である沖縄県の八重瀬町から香南市へ人事交流で派遣されていた宮里です。この誌面をお借りして半年間の交流の報告をさせていただきます。



# ハイサイ完

このコーナーは姉妹都市八重瀬町へ派遣された職員の体験通信です。

★派遣職員  
山本正志



今月号が最後の体験通信になります。沖縄の風土や歴史、高知とは違う環境の中で、多くのことを学びました。

## 八重瀬で過ごした6カ月

6月から沖縄県八重瀬町の職員として過ごしてきた半年が終わりました。長いようで短く、高知で過ごす半年とはずいぶん違う時間を過ごしてきました。

八重瀬町では主に町内で開催されるイベントの担当や、交付金に関する取りまとめ、八重瀬町のみでなく沖縄南部地区で組織する、沖縄南部広域観光協会の立ち上げ作業に参加してきました。

沖縄といえば観光県のイメージが強いですが、実は県内でも観光地と観光地でない地域の格差が激しく、いかに観光客を呼び込むかということが市町村の問題でもあります。それに伴い、南部の沖縄南部6市町村が協働で組織したものが南部広域観光協会です。今後、教育旅行(修学旅行)は見学型の旅行から、体験型の旅行に全国的にシフトしていこうとしています。今まで観光地でなかった市町村が観光ビジネスに参入できるチャンスでもあります。沖縄県の観光ビジネスの将来を左右する可能性のある組織の立ち上げに主体的に参加できたことは自分にとって大きな収穫であったと思います。

香南市に帰ってからも、この半年間で経験したさまざまなことを活かして働きたいと思います。そしてこのハイサイコーナーに半年間お付き合いいただきありがとうございました。

姉妹都市八重瀬町から人事交流で派遣された職員の体験記です。

★派遣職員  
宮里兼也



## 香南で過ごした6カ月

# こじゃんと交流

6月1日から3カ月間は、夜須町の教育委員会でお世話になりました。委員会には、「野市町」と「具志頭村」の旧町村時代に私と同じように人事交流で沖縄に派遣されていた職員がいて、温かく迎えてくれました。

雲田さんに慣れた6月の半ば、この「香南市こどもよさこい連合」の事務局として学校教育課の小松大洋さんと共に慌ただしい日々を送りました。7月7日から始まった小学生との練習は、思った以上に踊りが難しく「本当に大丈夫だろうか? 沖縄人に、よさこいを踊れるのだろうか?」と不安に思いました。

しかし、委員会の職員や踊り子の保護者の方々に助けられ7月31日「香南市みなこい港まつり」、8月10日には第58回よさこい祭りに参加し、大きなトラブルもなく、無事に踊りきることができました。踊るのはもちろん見るのも初めての「よさこい鳴子踊り」でしたが、集団演舞による一体感、会場の盛り上がりは一度体験したらヤミツキになりました。

交流期間も半分が過ぎた9月、教育委員会から本庁舎の企画課へ異動となりました。元々、八重瀬町でも「企画財政課企画係」に所属していたこともあり、古巣に戻るような気分でした。

企画課では「物部川ウォーキング2011」を担当し、同時開催の「物部川祭り」のお手伝いをさせて頂きました。この2つのイベントで共通しているのが、3市(香南市・香美市・南国市)が関わっているということ。八重瀬町にいたときは、3市町が関わるようなイベントは担当したことがなかったため、規模の大きさや調整の難しさ戸惑いました。

イベント前日の準備では、川が増水する程の大雨。開催が危ぶまれましたが、当日は、10月だというのに暑いぐらいの日差しになり大盛況でした。せうかくのイベントなのだから、成功させたい! という運営に関わった方々、参加者の皆さまの思いが天に届いたのかもかもしれません。

## 初めての「よさこい」

教育委員会(6月1日～8月31日)

## いざ企画課へ

企画課(9月1日～11月30日)

## 東へ西へ交流の旅

香南市の職員だけでなく大勢の方と知り合うことができました。

- 市こどもよさこい連合の保護者や小学生との交流
- 市体協のボウリング大会や野市入スポーツレクリエーション大会
- 小学生の田植え体験に参加
- 八重瀬から視察にきた「カラベジ」(http://www.karabeji.net)のメンバーと「道の駅とおわ」で商品開発や経営などを学ぶ
- 西土佐青年団を中心とした「高知県青年にぎわいポイント」と宮城県まで行き「みちのくYOSAKOI」に参加。被災地にエールを送る

## 人と人のつながり

今回の香南市との人事交流を通してたくさんのご縁をいただきました。再生紙の使用や、節電、緑のカーテンなど、職員のエコに関する取り組みやコスト意識の高さは八重瀬町でも見習うべきだと思いました。

一番の収穫は、やはり人と人との繋がりであったと確信しています。香南市・八重瀬町の職員間の繋がりはもちろん、ここでたくさんの高知県民と出会いたくさんの刺激を受けました。

高知での経験、人脈をこりからの八重瀬町の仕事へと活かし、沖縄をそして日本を元気にしていけたらと思います。

半年間と短い間でしたが、ここの香南市で数え切れないほどの方にお世話になりました。今度は、私が沖縄で、八重瀬式のおもてなしをしたいと思えます。皆さん本当にありがとうございました。

「また、まじゅんぬまやー」(また一緒に飲みましょう)



①炎天下のよさこい踊りにくたくたの様子②山北みかんマラソンで宣誓③教育委員会で一緒に働いた小松大洋さんと仲良くマラソン④夜須小学生と田植えを仲良く体験⑤道の駅やすの駅長と対談⑥ふれあい祭りで姉妹都市八重瀬町の土産を販売。



①ラジオ番組に電話出演し八重瀬町をPR②比屋根方次町長と配属先の企画財政課メンバーと記念写真③八重瀬町役場の門柱にある「シーサー」。沖縄方言で獅子のこと。家の守り神や魔除け、福を呼ぶ縁起物などとしてシーサーを据え付ける習慣があります。

## みんなの広場

### 耳から楽しむ文学 ——文学館サポーターによる朗読会

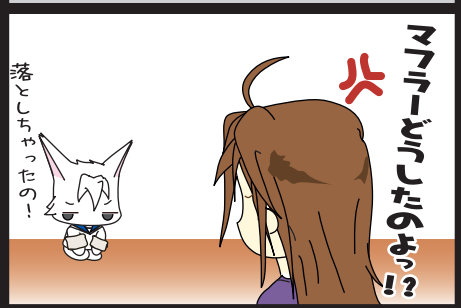
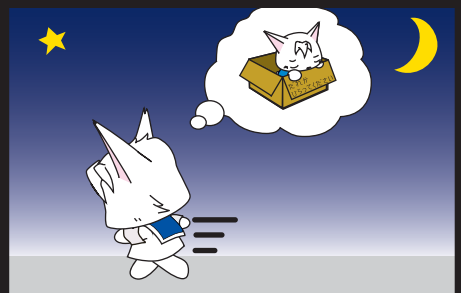
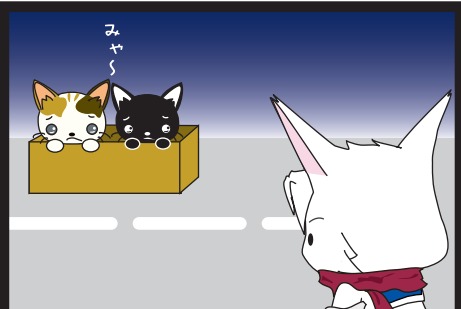


赤岡町横町商店街にある西川屋「与楽亭」で、10月29日(土)に開催された第61回高知県芸術祭「文学のある風景～文学館サポーターによる朗読会」(財団法人高知県文化財団・主催)へ行ってきました。

会場が赤岡町の和菓子の老舗であるということから、朗読された小説もそれにちなんだもので、高知を代表する小説宮尾登美子・作「鬼龍院花子の生涯」から赤岡町を描いた部分をはじめ、中里恒子・篠田一士の和菓子テーマにしたエッセイでした。

会場には、県立文学館のカルチャーサポーターの音が響き、どんどん物語に引き込まれていきます。

大人になって、人から物語を読んでもらう機会もなかったこともあり、とても新鮮で、耳から楽しむ文学は耳だけでなく、心も満たしてくれるものでした。



また来年!

## 市のうごき (H23.10.30現在) ( )は昨年同月対比

■人口/34,541人	10月の火災・救急事故
■世帯/14,404戸	■火災 0件(1件減)
(男/16,699人 女/17,842人)	■救急 109件(23件減)
■出生/23人 ■死亡/24人	10月の交通事故
■転入/104人 ■転出/63人	■事故件数 13件(1件減)
■対前月人口比/40人増	死者 0人(増減0)
	傷者 21人(6件増)

東日本大震災の被災地宮城県で、高知県内から集まった有志と「みちのくYOSAKOI」に参加。

